

すくらむ

ひがしおおさか こ
東大阪子ども市政だより
だい
第40号 2024年12月

発行：東大阪市 市長公室 広報広聴室 広報課
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号
電話06 (4309) 3000 FAX06 (4309) 3822

市ウェブサイト

CLICK

ダイバーシティ

って何だろう？

～みんなちがってみんないい

国籍

年齢

性別

障害

趣味

私たちの周りは
ちがいてあふれている

文化

ライフ
スタイル

価値観

ダイバーシティとは、「多様性」という意味です。私たちの社会には、いろいろな人がいます。例えば、性別、年齢、国籍、趣味など、異なる人たちが集まっています。このように、「いろいろなちがいがあること」をダイバーシティといいます。

今回の「すくらむ」では、私たちの周りのダイバーシティ「多様性」について考えます。



多様性ってなんだろう？

あなたはどんな人ですか？

あなたが家族や友人と同じところ、ちがうところは何か？

年齢や性別、国籍、趣味など、みんなちがう特徴を持っています。

例えば、日本では玄関で靴を脱ぎますが、部屋の中でも靴を履く国もあります。

このように、いろいろなちがいがあることを「多様性」といいます。

多様性はとても大切なことです。なぜなら、ちがう人たちが集まることで、新しいことを学んだり、ちがう文化や習慣を知ったりすることができるからです。

ちがいを受け入れたり、認めたりすることは、自分自身を大切にすることにもつながります。

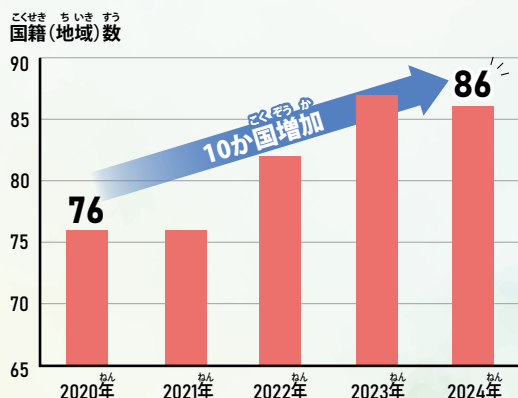
東大阪市は、全ての人が、自分らしく生きることが尊重され、お互いに助けあい、輝くことのできる共生社会をめざしています。

世界の人が集まる東大阪市

東大阪市の外国人住民の国籍(地域)数は、2020年には76か国でしたが、2024年には10か国増えて86か国となっています。

小・中学校の外国籍児童・生徒数をみると、2024年で635人が在籍してともに学んでいます。(令和6年5月現在)

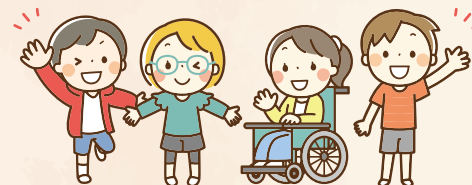
東大阪市の外国人住民の国籍(地域)数(2020年～2024年)



ちがいを認めあおう

文化・性別・世代・障害など、さまざまな組み合わせにより私たちは存在しています。

誰もが自分らしく暮らせる社会のために、多様性を「自分のこと」として考えてみましょう。



自分の行動を見直してみよう

- ☒ 自分と違う考えや趣味をもっていることを尊重しよう
相手の意見をしっかりと聞いて尊重し、それぞれのちがいを活かし、ともに助けあいましょう
- ☒ 相手の気持ちを想像しよう
「普通はこうだろう」「男の子だから、女の子だから」と思い込みで判断せず、その人の気持ちを考えましょう
- ☒ 他の国や地域の、文化や習慣について学んでみよう
新しいことを知ることで視野が大きく広がります
- ☒ 感謝の気持ちを伝えよう
周りの人に感謝の気持ちを伝えることで、人とつながり、良い関係を築くことができます
- ☒ 自分を大切にしよう
自分を大切にすることが、他の人を大切にすることの第一歩です

自分の周りの多様性を知って、
自分自身ができることを考えてみましょう！

ちがいを知ると、世界がひろがる～みんなで学ぶ・楽しむ！

車いすで体験！ウィルチェアスポーツ

花園中央公園の中には、障害の有無や年齢にかかわらず、誰もがともにスポーツを楽しむことができるウィルチェアスポーツコートがあります。10月31日には市内小学校の児童ら約200人が体験会に参加し、車椅子ソフトボールやボッチャなどを体験しました。

慣れない車いすの操作に、最初は戸惑いながらも、さまざまなウィルチェアスポーツを楽しんだ児童たちは「ウィルチェアスポーツを通じて普段できない体験ができてよかった」や「これから車いすに乗っている人の気持ちを考えようと思った」などと話していました。

ボッチャ



車いす
アルティ
メット



車椅子
ソフト
ボール

車いすアメ
リカンフッ
トボール

異文化に触れる！カラフルコミュニケーションパーク

カラフルコミュニケーションパークは、さまざまな国の文化に出会い、触れることを通して、それぞれのちがいを大切にする力を育てる取り組みです。11月22日には、近畿大学の実学ホールで「つながろう世界と つなげよう未来に」をテーマに開催され、市内小学校7校の児童が参加し、異なる文化を知るとともに、異文化について考える様子が見られました。来年2月には文化創造館で開催予定です。

全体シンポジウム

スコットランド出身の、リンゼイ キャメロン ノミヤマ カワイさんに、スコットランドの文化や生活などについて、お話ししていただきました。



バグパイプの
演奏

ブース交流

それぞれの学校で学んだことや感じたことを、意見交換したり、シンポジウム講師などさまざまな人と交流したりして、楽しみながら異文化について学びました。



誰もが安心して暮らせる社会(まち)へ

自分にとっての当たり前が、隣の人にとっての当たり前ではないかもしれません。

社会にはいろんな人がいます。私たち一人ひとりが多様性の一部です。

みんながちがうからこそ、お互いに助けあい、それぞれの個性を尊重し認めあうことが大切です。

みんながおもう

多様性って?

白頃からいっしょに学んでいるみんなの仲間に、「みんながおもう多様性について」聞いてみたよ!今回はカラフルコミュニケーションパークに参加したみんなから意見を聞きました。



自分は自分らしく、みんながみんならしく、生きられる社会にするために、このすくらむをきっかけに「多様性」について考えてくれたらうれしいです。